



収穫に集中する上田さん



アスパラガスの状態を見てもらい相談する上田さん

収穫初年度でアスパラ反収3t

就農2年目の上田さん

アスパラガス部会の上田俊博さんは就農2年目で、アスパラガス収穫初年度です。春夏の出荷目標だった反収3tを9月で超えました(栽培面積:18a、部会平均反収は1.6t)収穫は10月までで、終盤の追い込みをかけます。

上田さんは日中の栽培管理に重点を置くため、収穫は早朝の時間帯に行い、効率的な作業形態に取り組んでいます。また同時に、家族で過ごす時間も大切にすることを心掛け、農作業と家庭の両立を目指しています。

作業面では、春芽の収穫は早めに切り上げ、立茎に専念し夏芽に向けての管理を徹底。8月の暑さに病気が始まった時も思い切った親木上部の剪定を早めに行い、下枝や脇芽の整理を徹底し換気を良くしました。上田さんは「収穫が楽しく、農業が面白い!来年は反収4tを目指します」と意気込んでいます。

困ったり迷ったりしたらすぐに相談してくれます。部会仲間の話もよく聞き、早めの対策・行動でこまめな管理をしています。自分のハウスではどうしたらよいかを判断し、即行動するところがすごいところだと思います。

アスパラガス部会は新規や若手農家が増えていきます。生産者主体の勉強会を増やし、一層の品質向上を目指します。

椎茸部会総会・実績報告会

R7.9.11

宮農センター 酒井 俊一郎



工藤部会長あいさつ



新部会長に中村さん



吉良さん

▲役員改選で、部会長に中村和幸さん、副部会長に平山敏範さんが就任しました。

原木椎茸人気です!乾燥椎茸高値取引

令和6年度(R6・9月~R7・8月まで。部会員20戸)は、秋子、春子ともに生育期の気温の低下や降雨量が平年より少なく成長が遅れ心配しましたが、散水などの栽培管理により乾燥椎茸では数量・販売高・単価ともに前年対比110%以上の実績となり、生椎茸では出荷数量が減少しましたが、単価高での実績となりました。

※部会では乾燥椎茸を中心に、出荷・販売を行っています。

※全国的に生産者の減少や気候変動による栽培管理の難しさで、原木椎茸は貴重で高価なものとなってきており、今まで規格外だった商品も引き合いが強くなっています。

〈共販優良表彰〉乾燥椎茸

1位:吉良 昌芳 2位:緒方 利博 3位:山中 今朝利

スナッフエンドウ部会総会・実績報告会

R7.9.12

北宮農センター 橋口 裕幸



緒方さん 早田部会長 (農)久米

定期的な栽培講習会・現地検討会で品質向上

令和6年度産(R6・11月~R7・5月まで)は、部会員15戸、129aで栽培。暖冬による病害虫の発生や品質低下が懸念されましたが、定期的な栽培講習会や現地検討会と生産者の努力により秀品率90%以上を保ち、高単価を維持することができました。令和7年度は、平均反収2.5t、販売高3200万を目指します。

〈表彰〉 販売高賞=農事組合法人 久米

躍進賞=緒方 志乃